

2022 年度  
日本福祉大学大学院  
履修証明プログラム

開講科目 科目概要



# 目次

## ■履修登録期限【前期】科目 ※前期履修登録期間のみ登録可能

	頁
私の研究テーマと研究方法	3
経営分析論	4
スーパービジョン論	5
福祉サービスマネジメント概論	6
医療福祉政策論	7
経営管理概論	8
プログラム評価論	9
ソーシャルワーク論	10
マーケティング論	11
研究方法概論	12
福祉産業論	13
福祉サービスマネジメント特講 I	14

## ■履修登録期限【後期】科目 ※前期・後期履修登録期間ともに登録可能

	頁
福祉教育方法論	15
医療福祉経営論	16
医療福祉経済論	17
社会福祉政策論	18
保健・医療・福祉サービス論	19
ケアマネジメント論	20
人材マネジメント論	21

科目名	私の研究テーマと研究方法	2 単位
担当教員	齊藤 雅茂	
科目のねらい	この科目は、全研究科が合同で開講する大学院統一導入科目である。大学院で研究を始めようとする院生に本学の教員が取り組んでいる研究テーマやそれに応じた研究方法を紹介する。また社会連携の視点から一般市民の皆さん、これから研究者をめざそうとする方々、実務関係者、そして学部学生にも広く公開している。各教員がリー形式で、自分の研究テーマ、研究の背景、問題関心、研究方法、あるいは研究者としてたどった道筋などを解説する。扱う領域は福祉、心理、経営、開発など多岐にわたる。本学教員の研究に直にふれることで研究の楽しさの一端を知るとともに、それぞれの研究の切り口へのガイドとしてほしい。	
授業の 進め方	4月11日(月)	
	6 限 18:25-19:55	齊藤雅茂 オリエンテーション
	4月25日(月)	
	6 限 18:25-19:55	青木聖久 精神保健福祉領域の当事者の暮らしに必要な現実的・情緒的アプローチ—医療費助成を中心にして—
	7 限 20:05-21:35	原田正樹 地域共生社会の思想と施策—地域福祉の視点から—
	5月9日(月)	
	6 限 18:25-19:55	吉村輝彦 これからの地域づくりをどのように捉えていくのか:実践と理論の往還
	7 限 20:05-21:35	中島民恵子 認知症の人と家族への支援—ミクロ・メゾ・マクロの視点
	5月23日(月)	
	6 限 18:25-19:55	小國和子 ダイバーシティ時代のエスノグラフィー—農村開発から「生理の話」まで—
	7 限 20:05-21:35	山田壮志郎 日本における貧困問題と生活保護
	6月6日(月)	
	6 限 18:25-19:55	鷲野明美 刑事司法とソーシャルワークの連携—高齢者犯罪への対応に関する日独比較研究—
	7 限 20:05-21:35	大谷京子 ソーシャルワーカーの専門職アイデンティティ—Mixed method による探求
	6月20日(月)	
	6 限 18:25-19:55	宮腰由紀子 看護活動に資するための分析(仮)
7 限 20:05-21:35	小松理佐子 日本型社会福祉モデルのデザイン—民生委員制度の持続可能性—	
7月4日(月)		
6 限 18:25-19:55	木全和巳 しょうがいがある人たちへの性と生の支援の源流を求めて 糸賀一雄「性教育」論考(1965)を読み拓く	
7 限 20:05-21:35	小川しおり 自閉症を持つ子どもと大人のよりよい未来のために	
7月11日(月)		
6 限 18:25-19:55	新谷 司 学際的・批判的会計研究の俯瞰的研究	
7 限 20:05-21:35	末盛 慶 生活戦略の社会学—研究活動の意義と進め方を考える	
事前学習の内容 学習上の注意	各講義の最後に、コメント用紙を提出すること。	
テキスト	なし	
成績評価 方法と基準	小レポート 50 点、最終課題レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。 小レポートは講義ごとに所定の様式で提出いただくものです。最終課題レポートは全 15 講義のうち、少なくとも 2 講義を選んで、それぞれについて(単なる感想でなく)「講義から学んだこと」を所定の用紙に1講あたり1枚に書いて、全 15 講義終了後に所定の方法で提出してください。	

科目名	経営分析論（隔年開講、2022年度開講）	2単位
担当者	橋口 徹	
テーマ	事業経営を支える経営・財務分析	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 会計・財務情報、経営・財務分析</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 営利非営利を問わず、経営組織において、自組織のみならず競合他組織の経営状態を把握し理解することは重要である。その経営状態は、貨幣単位による定量情報として会計情報に集約されることから、財務諸表を用いた分析による実態把握は、事業経営にとって大変有用といえる。本講義では、その分析手法や、分析結果をどのように解釈するのかなどについて学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業経営を支える経営・財務分析の意義と必要性・重要性について理解できる。</li> <li>・事業経営を支える経営・財務分析の基本的な手法と、その利用方法について理解できる。</li> <li>・経営・会計に関わる論文執筆に必要な事例や情報を収集できる。</li> </ul>	
授業の進め方	第1回 イン트로ダクション/経営分析とは何か① 第2回 経営分析とは何か② 第3回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:貸借対照表①(安全性分析など) 第4回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:貸借対照表②(安全性分析など) 第5回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:損益計算書①(収益性・成長性分析など) 第6回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:損益計算書②(収益性・成長性分析など) 第7回 貸借対照表及び損益計算書の組み合わせによる分析①(生産性分析など) 第8回 貸借対照表及び損益計算書の組み合わせによる分析②(生産性分析など) 第9回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:CF計算書①(CF分析など) 第10回 財務諸表の見方と会計・財務指標の理解:CF計算書②(CF分析など) 第11回 経営・財務分析の基本的な手法の理解(その他)① 第12回 経営・財務分析の基本的な手法の理解(その他)② 第13回 医療・介護事業における経営分析① 第14回 医療・介護事業における経営分析② 第15回:まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	上記「授業の進め方」に記載した内容に照らして、指定した参考文献の関連部分を授業前に読んでおくことが望ましい。なお、「授業の進め方」で予定された講義内容は、受講生の状況等を勘案したうえで、一部については、適宜変更する可能性あり。	
本科目の 関連科目	会計学(経営分析論と隔年で開講)、経営管理概論、医療福祉経営論	
テキスト	特にテキストは指定しない。講義の際に、適宜、必要に応じて参考文献等を紹介するとともに、必要な資料を配布する。	
参考文献	石井孝宜(2003)『医療・介護施設のための経営分析入門(病院編)』じほう。 桜井久勝(2020)『財務諸表分析(第8版)』中央経済社。 松田修一(2006)『ビジネスゼミナール 会社の読み方』日本経済新聞社出版。	
成績評価 方法と基準	レポート(60点)、講義時の積極的質問・発言内容(40点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

科目名	スーパービジョン論	2単位
担当者	山口 みほ・大谷 京子	
テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解と実践への応用	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;          ソーシャルワーク・スーパービジョン、個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性、スーパービジョンの倫理</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          ①ソーシャルワーク・スーパービジョンについての基礎的理解を図る。スーパービジョンの教育的機能・支持的機能・管理的機能の具体的な展開について、実践的に学ぶ。          ②所属組織におけるソーシャルワーク専門職としての在り方を考える。          ③後進養成教育の過程におけるスーパービジョンの援助関係の特質や具体的な援助技術について明確化を図る。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          ・ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解を図り、自らの教育体験や現場体験を内省的に考察し、言語化することができる。          ・専門職としての後進育成に関する、新人研修・実習教育プログラム等の具体的な計画やマネジメントを遂行できる。</p>	
授業の進め方	<p>①内外の理論の学習と実践的なスーパービジョンの体験学習を有機的に組み合わせる。ソーシャルワーク・スーパービジョンの歴史的背景・倫理・諸過程・諸機能・援助関係・多面的効果等に関し、基礎的な理解を図る。積極的な自己学習と講義時の討議への活発な参加が期待される。          ②体験学習の方法として、ロールプレイやグループディスカッション等を豊富に活用する。スーパービジョンの理論と実践の統合への基礎的理解、内省的考察や気づきを導く方法への理解を深める。</p> <p>第1回 オリエンテーション          第2回 スーパービジョンに関する理論          第3回 指導的立場の役割についての困難とスーパービジョンによる対処          第4回 スーパービジョンのセッション事例          第5回 スーパービジョンで活用されるスキル          第6回 新米スーパーバイザーが直面する困難とその対処          第7回 スーパーバイザーとしてスタートを切り、セッションを続けるための工夫          第8回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）          第9回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）          第10回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）          第11回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り）          第12回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会          第13回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会          第14回 個別スーパービジョンの演習          第15回 全体の総括・まとめ</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>テキストにはあらかじめ目を通して、ソーシャルワークスーパービジョンについての基礎的理解をおさえておくこと。          実践レポートについて：本科目で実施した講義と演習を基に、受講者それぞれの現場でスーパービジョンを試行していただき、その内容について報告してください。（40文字×40行で1600字以内）</p>	
本科目の 関連科目		
テキスト	大谷京子・山口みほ編著（2019）『スーパービジョンのはじめかた：これからバイザーになる人に必要なスキル』ミネルヴァ書房。	
参考文献	アルフレッド・カデュージン（2016）『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』中央法規出版。 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟（2015）『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版。	
成績評価方法 と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、実践報告レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	福祉サービスマネジメント概論	2単位
担当者	篠田 道子	
テーマ	保健・医療・福祉サービスのマネジメント(管理・運営・人材育成)を考える	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 保健・医療・福祉サービス、 マネジメント、 ミドルマネジャー、リスクマネジメント、意思決定支援 地域包括ケアシステム、 多職種連携</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 少子高齢化や情報化社会の進行とともに、福祉サービス、組織やチーム、リーダーシップのあり方が変化している。本講ではミドルマネジャーという視点から福祉サービスのマネジメント(管理・運営・経営)を考える。本科目における「福祉」とは、保健・医療・福祉・リハビリ・介護を包括した広義のものである。講義、ディスカッション、グループワーク、ワークショップなど複数の方法を組み合わせる。授業では様々な保健・医療・福祉サービスの場面にスポットを当て、自分がその場面の当事者であればどのように状況を理解し、そしてどのように意思決定し、組織やサービスを動かしていくのかを考える。授業は意思決定と思考訓練の場でもあり、理論的知識と実践的な知見の双方の向上を目指す。また、わが国における福祉サービスを多面的かつ相対的に検討するため、国際比較も随時取り入れていく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・広義の福祉サービスのマネジメントを理解する。 ・意思決定と思考訓練を重ね、適切な解決策を見つけ、グループ内での合意を形成できる。</p>	
授業の進め方	<p>本講義は、隔週2コマ連続とする。</p> <p>第 1・2 回 オリエンテーション、自己紹介、問題提起 多職種連携を高めるカンファレンス(ブレインストーミング、ケース教材による討論)</p> <p>第 3・4 回 福祉サービスにおける組織変革(ケース教材による討論)</p> <p>第 5・6 回 多職種で支える意思決定支援-終末期ケアに焦点を当てて-</p> <p>第 7・8 回 地域包括ケアシステムとネットワーク形成(院生による事例提供と討論)</p> <p>第9・10 回 医療・福祉サービスの国際比較</p> <p>第 11・12 回 高齢者施設における新型コロナのリスクマネジメント</p> <p>第 13・14 回 静かなリーダーシップ(グループワーク+発表)</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p> <p>※都合により、授業の内容と順番を一部変更することがあります。</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>・事前に配布したケース教材を読み、課題シートに自分の考えをまとめ、グループワークで発言できるように準備しておくこと。</p> <p>・地域包括ケアシステムの概要、取り組み状況、評価等について、事前に調べておくこと。</p>	
本科目の 関連科目	保健・医療・福祉サービス論	
テキスト	テキストは使用しない。レジュメ、ケース教材、実践報告書、雑誌論文、新聞記事など多様な教材を使う。	
参考文献	<p>・篠田道子(2011)『多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル』(医学書院)</p> <p>・篠田道子他編集(2018)『多職種で支える終末期ケア-医療・福祉連携の実践と研究』(中央法規)</p> <p>・J.バダラッコ、高木晴夫監修(2010)『静かなリーダーシップ』(翔泳社)</p>	
成績評価 方法と基準	<p>最終レポート(50点)、②平常点(50点):コメントカード、事前課題、グループワークへの参加状況等で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。最終レポート:テーマは、授業で扱う内容に関連するものを各自でテーマ設定する。A4版で 2000 字程度にまとめる。締め切りは 2022 年 7 月 30 日(土)までに、大学院事務室が指定する提出 BOX に提出すること(締め切り厳守)。</p>	

科目名	医療福祉政策論	2 単位
担当者	李 忻	
テーマ	医療福祉制度・政策研究	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 制度・政策の定義、医療保険制度、高齢者に関わる医療・福祉制度、介護保険制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 21世紀初頭に日本は世界一の超高齢社会となった。それに伴い、国民医療費を筆頭に、医療・福祉分野での費用支出が増え続けている反面、多くの医療機関は経営難に直面している。国民皆保険の医療制度を維持しつつ、医療福祉システムの効率化がより一層求められている。</p> <p>本講義ではまずは、基礎的な知識として医療・福祉や政策に関する専門用語の定義を学び、日本の現状の医療・福祉制度の基本的な枠組みや財政状況を理解する。その上で、各自が数多くの医療福祉制度・政策において、それぞれの制度・政策の構造的な課題について自ら分析、整理でき、かつ、自らこれらの制度・政策の課題を解決するための改革案を提案できる知識を習得する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 社会保障制度の中の医療福祉制度について理解できる。 現役世代の医療保険制度を理解できる。 高齢世代に関わる医療保障制度を理解できる。 今日の医療福祉制度・政策医療政策の課題を理解できる。 医療福祉制度・政策の課題を解決するための改革案を提案できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 制度・政策に関わる基礎知識の学習 第 2 回 日本の国民皆保険の歴史 第 3 回 日本の医療保険制度の枠組み 第 4 回 国民健康保険制度 第 5 回 被用者医療保険制度 第 6 回 近年の医療保険制度改革 第 7 回 後期高齢者医療制度 第 8 回 前期高齢者医療財政調整制度 第 9 回 高齢者医療制度を支える財政の仕組み 第 10 回 今日の医療保険制度の課題 第 11 回 介護保険制度の仕組み（1） 第 12 回 介護保険制度の仕組み（2） 第 13 回 介護保険制度の近年の制度改正 第 14 回 介護保険制度の財政構造と課題 第 15 回 医療福祉の連携と地域包括ケアシステム	
事前学習の内容 学習上の注意	○授業の討論に積極的に参加し、自らの意見を述べる際に根拠を示すこと ○授業の後、復習すること	
本科目の 関連科目	特に指定なし	
テキスト	なし（必要に応じて逐次指示・講義資料を配布する）	
参考文献	『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）	
成績評価方法 と基準	期末レポートで成績判定を行う	

科目名	経営管理概論	2単位
担当者	柳 在相	
テーマ	医療福祉の経営戦略とマネジメント	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  戦略的意思決定、戦略策定の進め方、経営戦略の中核理論、戦略と組織の相互浸透、組織と成果のマネジメント</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  本講義の狙いは、組織の存続および持続的成長に着目し、経営戦略の策定及び実行におけるマネジメントの役割が理解できるように努めることである。まずは経営戦略の中核理論について体系的に理解を進めた上で、組織の本質や組織文化、戦略的組織などについて検討する。そして、イノベーションの構図やパターン、変革のリーダーシップなどについての知識を吸収した上で、現実の事例をとりあげ、ケース・スタディをおこなうことにする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  * 医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。  * 医療・福祉組織におけるマネジメント及び多色種連携の意義を把握できる。  * 自らの考えを明確かつ論理的に組み立てて他者に説明し、意見交換できる。  * 基本的人権擁護の意義や個人情報保護の必要性などを説明できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 経済とは何か 第 2 回 マネジメントとは何か(経営組織としての使命と役割) 第 3 回 「クロズド組織(管理論)」から「オープン組織(戦略論)」へ 第 4 回 医療福祉のための経営戦略(1) 第 5 回 医療福祉のための経営戦略(2) 第 6 回 医療福祉のための経営戦略(3) 第 7 回 医療福祉のための経営戦略(4) 第 8 回 組織マネジメントの基礎 第 9 回 人のマネジメントとリーダーシップ 第 10 回 組織文化とマネジメント 第 11 回 経営戦略としてのイノベーション 第 12 回 医療福祉のイノベーション(ライブケース) 第 13 回 医療福祉のためのイノベーション(1) 第 14 回 医療福祉のためのイノベーション(2) 第 15 回 医療福祉の経営戦略と組織マネジメント(まとめの講義)	
事前学習の内容 学習上の注意	○テキスト「経営学総論」について事前に予習すること。 ○次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ○毎回授業では、まず担当者から報告をしてもらった上で、ディスカッションを行うので、積極的な姿勢で臨むこと。 ○授業終了時に、次回の範囲と担当者を確認し、資料や論文を配布する場合は読んでおくこと。	
本科目の 関連科目	医療福祉経営論, 医療福祉政策論, 人材マネジメント論, マーケティング論	
テキスト	拙著『経営学総論』白桃書房、2020	
参考文献	拙著『ベンチャー企業の経営戦略』中央経済社、2003 拙著『JA イノベーションへの挑戦～非営利組織のイノベーション』白桃書房、2009	
成績評価 方法と基準	担当の小レポート及び期末レポート(60%)、ディスカッションへの参加度(40%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	



科目名	プログラム評価論	2単位
担当者	横山 由香里	
テーマ	実践や介入プログラムの課題や効果等を科学的に評価する方法を学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. エビデンス 2. プロセス評価 3. アウトカム評価 4. バイアス 5. ロジックモデル</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 近年、社会福祉や保健医療の実践が効果的に行われているかを検証することが求められています。本講義では、実践の経過や実践後の成果・課題等の評価方法を学び研究のリテラシーを高めます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉や保健医療の領域で行われている取り組み(介入や実践)の効果等に関する文献を、読解できる</li> <li>・取り組み(介入や実践)を評価する上で重要な視点を理解できる</li> <li>・科学的な視点で、自身の問題意識や関心に迫るために必要な情報を収集、分析、記述できる</li> <li>・様々な視点から検討することや個人情報保護の重要性を理解して研究を計画できる</li> </ul>	
授業の進め方	<p>第1回 ガイダンス 第2回 エビデンスとは 第3回 代表的な社会福祉調査法 第4回 介入や実践の「効果」とは 第5回 プログラムを開始する前のアセスメント・ロジックモデル 第6回 「効果」を評価する方法① 第7回 実際の文献に学ぶ 第8回 バイアスとは 第9回 「効果」を評価する方法② 第10回 プロセス評価とは 第11回 アウトカム評価とは① 第12回 アウトカム評価とは② 第13回 実際の文献に学ぶ 第14回 様々なプログラム評価 第15回 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げる文献は受講者の専門分野に合わせて決めます。</li> <li>・進度の都合で授業の順番を変更する可能性があります。</li> </ul>	
事前学習の内容 学習上の注意	論文を事前配布した場合には、各自で目を通しておくことを推奨します	
本科目の 関連科目	研究方法概論	
テキスト	特になし	
参考文献	「プログラム評価 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之著. 新曜社(2011) / 「プログラム評価の理論と方法 -システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド」P. H. ロッシ・M. W. リブセイ・H. E. フリーマン 著, 大島巖・平岡公一・森俊夫・元永拓郎 監訳. 日本評論社(2005)	
成績評価 方法と基準	レポートの提出(50%)、ディスカッションへの参加(50%)により、総合的に評価する。全体で60%以上を合格とする。	

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として、事例検討やロールプレイなどの実践を通じて理解する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤ 専門性</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチの基本的知識と支援観(倫理観)を得ることによって、とくにミクロからメゾレベルの領域のソーシャルワークの専門性の確認を行う。また実践事例を分析し、グループワークにより、コミュニケーションをはかる体験をすることで、ソーシャルワークの価値にもとづく知識・技術を検証し、さらにそれらを専門家のコンピテンスとして身につけるための集団学習およびセルフワークによる学修を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育手法により実践理論・アプローチを適用し、参加型授業によって、個人・集団・地域の一定の視点からの多様な事例の事実を観察し、理解し、分析・解釈し、評価するといった段階を経て、ソーシャルワーク実践の一連の流れを体験する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 人の人生/生活に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、方法論としてのソーシャルワークの実践方法を理解することができる。 ソーシャルワーク理論や展開過程を問題解決に応用する能力として技能や表現を身につけ、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーションに役立てることができる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 SWの実践理論概論、事例検討 第 3 回 援助観価値観の理論的変遷、討論 第 4 回 統合理論の流れ概観、事例検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ロールプレイ 第 6 回 役割理論、ロールプレイ、事例検討 第 7 回 ピンカスミナハンの4つのシステム論、エコマップ作成 第 8 回 GWに関する基礎理論概観、ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、事例検討、ロールプレイ 第 10回 システム理論、参与観察法によるフィールドノーツの作成 第 11回 チームアプローチ、場の理論、カンファレンス、KJ法 第 12回 エンパワメントエバリュエーション法、ワークショップ、報告会 第 13回 ソーシャルワークリサーチ、社会調査、介入計画作成 第 14回 実践理論と実際の総括、ディスカッション 第 15回 まとめ(レポート作成、報告会)	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストや資料や課題を事前に読んで学習し考えておくこと。 ○ディスカッションやロールプレイなど演習形式を多用するので、積極的に参加すること。 ○毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習しておくこと。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○社会福祉学での基礎的な理論に関する知識を確認しつつ講義する。	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組み作成に寄与することができる。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格対象科目として認定されている。	
テキスト	なし そのつど資料・レジュメ・録画等の提示をおこなう	
参考文献	渡部律子 「福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント」 ミネルヴァ書房 (2020) 「ソーシャルワークとは何か」 川島書店 Zブトゥリム その他 授業中に提示	
成績評価 方法と基準	授業2限に1回ごとのセルフワークによる課題の提出(20%) ディスカッション・ロールプレイへの参加度(20%)、 1日ごと課題レポート3回提出(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする	

科目名	マーケティング論	2単位
担当者	小木 紀親(非常勤教員)	
テーマ	企業・医療・福祉・行政・地域・生活者などの視点から多面的にマーケティングをとらえる	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; マーケティング／医療・福祉のマーケティング／行政・地域のマーケティング／ケースメソッド</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義(講義形式)の目的は、マーケティング理論を習得するとともに、市場競争及び差別化の概念と、実際の企業及び非営利組織(医療・福祉・行政を含む)のマーケティング戦略の仕組みを多面的に理解していくことにある。具体的には、マーケティング戦略の4つの軸(製品、価格、流通チャンネル、プロモーション)を中心として、関連論文、ケースメソッドなどを活用しながら、今日的な企業及び非営利組織(医療、福祉、行政など)のマーケティング活動や市場における多様なマーケティング現象を、批判的精神をもって理解・考察していく。また本講義では、医療・福祉マネジメントを強く意識し、各受講者の研究の方向性(フィードバックを含む)、ケースメソッド、ショートケースの作成なども行っていく。なお、毎回の講義においてフィードバック・ふりかえりを行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・批判的精神を持ち、マーケティングの基礎と応用を理解することができる。</li> <li>・企業、医療・福祉、行政・地域等においてマーケティング的な考察ができる。</li> <li>・ケースメソッドにおける議論・作成などを行うことができる。</li> <li>・自身の問題意識や関心をまとめるために必要な情報を収集することができる。</li> <li>・医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。</li> </ul>	
授業の進め方	第1回 導入講義(マーケティングとは／批判的精神とマーケティング／評価方法) 第2回 現代マーケティングの潮流 第3回 マーケティングの基本体系 第4回 製品戦略／価格戦略 第5回 流通チャンネル戦略／プロモーション戦略 第6回 医療・福祉のマーケティング 第7回 行政・地域のマーケティング 第8回 ソーシャルビジネス 第9回 国内外論文・文献の検討 第10回 ゲスト講義 第11回 ケースメソッド①(企業戦略) 第12回 ケースメソッド②(ソーシャルビジネス) 第13回 ショートケース構想発表 第14回 ショートケース構想に対するディスカッション 第15回 総括及びフィードバック・ふりかえり	
事前学習の内容 学習上の注意	・事前学習として、先に配布する講義資料や論文を十分に予習すること。 ・次回以降の講義範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。 ・復習はもとより、毎講義後に課題がでるため、必ず事後学習をすること。	
本科目の 関連科目	医療福祉経営論、経営管理概論	
テキスト	講義中に適宜指示する。	
参考文献	小木紀親『マーケティングEYE【第5版】』中部経済新聞社、2020年。	
成績評価 方法及基準	授業内レポート(約35%)、授業内の貢献度・ディスカッションへの参加度・受講態度(約25%)、課題・ショートケースの作成(約40%)、その他、などから総合的に判断し、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	研究方法概論	2単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 研究方法 質的方法 量的方法 研究課題 仮説</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。質的方法と量的方法の双方を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法、質的分析の結果の示し方について解説する。院生同士によるインタビューやラベルの名づけの演習なども行う。量的方法に関しては、調査デザインの作成、調査票の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と分析方法を学ぶ。SPSS を用いた分析演習も複数回行う(※一部の回を一般公開する場合があります)。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>①質的および量的方法の概要を理解する。②質的および量的データのとり方を理解する、③質的および量的データの分析の仕方を理解する。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 研究方法－質的方法と量的方法</p> <p>第2回 質的方法の概要</p> <p>第3回 質的データの取り方Ⅰ－インタビュー調査を中心に</p> <p>第4回 質的データの取り方Ⅱ－観察法・エスノグラフィー</p> <p>第5回 質的データの分析法Ⅰ－グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第6回 質的データの分析法Ⅱ－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第7回 質的データ分析の結果の示し方</p> <p>第8回 量的方法の概要</p> <p>第9回 調査票の作成・配布・回収</p> <p>第10回 データ入力と基本集計</p> <p>第11回 SPSS を用いた量的分析Ⅰ－単純集計と変数の再構成の仕方</p> <p>第12回 SPSS を用いた量的分析Ⅱ－クロス集計とカイニ乗検定</p> <p>第13回 SPSS を用いた量的分析Ⅲ－平均値の比較に関する分析</p> <p>第14回 SPSS を用いた量的分析Ⅳ－相関分析と回帰分析</p> <p>第15回 混合研究法</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	以下の参考文献のうち、中嶋洋『初学者のための質的研究 26 の教え』と、須藤康介・古市憲寿他『新版文系でもわかる統計分析』を読みながら、本講義を受講すること。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法	
テキスト	テキストは用いません。毎回レジュメを配布し、講義と演習を行います。	
参考文献	<p>岩田正美・中谷陽明他『社会福祉研究法』有斐閣 2006年</p> <p>木下康仁『ライブ講義 M-GTA』弘文堂 2007年</p> <p>グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』新曜社 2017年</p> <p>向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社 2007年</p> <p>戈木クレイグヒル滋子『質的研究方法ゼミナール(増補版)』医学書院 2008年</p> <p>佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社 2008年</p> <p>須藤康介・古市憲寿・本田由紀『新版文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版 2018年</p> <p>高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979年</p> <p>中嶋洋『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院</p> <p>パンチ,K.F.『社会調査入門:量的調査と質的調査の活用』慶応義塾大学出版会 2005年</p> <p>村瀬 洋一・高田 洋他『SPSSによる多変量解析』オーム社 2007年</p>	
成績評価 方法と基準	最終レポート(50点)、出席回数(50点)により評価し、総合評価 60点以上を合格とする。	

科目名	福祉産業論	2単位
担当者	後藤 芳一(非常勤教員)	
テーマ	修士論文を作成に必要な基本的な研究の方法論(枠組、研究・論文の必要条件、技法など)を学ぶ。産業を分析するために必要な経営の基本的事項(例:戦略、マネジメント)の理論と実践力を学ぶ。講義は演習を中心に行い、福祉用具産業などに触れる。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 論文の枠組、課題の構造化、経営戦略、企画立案とマネジメント、福祉産業</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 修士論文の作成に必要な基礎学力(例:研究の意義、論文の枠組、研究・論文であるための要件、技法(課題発見と構造化、論理と分析、文章、図表))と、将来、本格的な研究をめざす際に必要な姿勢の修得をめざす。 合わせて、産業を理解するために必要な経営の基本的事項(例:市場、戦略、事業モデル、マネジメント、マーケティング、組織、経営分析)を学ぶ。戦略やマネジメントの知見は、研究を行う力としても寄与することをめざす。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 医療・福祉マネジメントの基礎的概念を理解して応用例を示すとともに、意義を事例と共に示すことができる。 論文執筆に必要な研究の方法論を理解できる。自らの考えを論理的に組み立てて他者に説明し意見交換できる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 講義の目的(研究の目的と意義、マネジメント理論の研究への活用) (()内の前半は医療福祉の研究に関わること、後半は経営やマネジメント関係(以下同じ))</p> <p>第2回 枠組の俯瞰(医療福祉事業の形態、公共と営利・効率と公正)</p> <p>第3回 理論と歴史(量的・質的研究(看護科学の発展史)、マネジメント理論の発展)</p> <p>第4回 社会の動向(社会保障への要請、成熟社会と持続性)</p> <p>第5回 福祉と産業(産業の医療福祉における役割、競争とポジショニング)</p> <p>第6回 資源の管理(研究資源と組合せ、分析の基本的技法)</p> <p>第7回 課題の設定(研究の範囲と階層、スコープと体系図)</p> <p>第8回 対策の立案(研究方針の選択、経営資源の統合と代替案の比較)</p> <p>第9回 分析と評価(研究資源と組合せ、経営の分析法と統計)</p> <p>第10回 運営と管理(研究の工程管理、マーケティング・ミックスとプロジェクトマネジメント)</p> <p>第11回 意思決定論(代替案の立案、意思決定(感度分析ほか))</p> <p>第12回 組織と体制(研究とキャリアパス、動機づけ・リーダーシップと組織)</p> <p>第13回 論文の文章(論理と文章、縮約)</p> <p>第14回 事例と演習(研究論文、事業モデル)</p> <p>第15回 講義の総括(研究・論文とマネジメントの関わり)</p> <p>(演習を中心とするので、上の内容を盛り込みつつ、順序は変更することがある)</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、発言や発表を歓迎し重視する。</li> <li>・発言や発表の内容は、毎回講義の前や講義中に出題する演習課題、自身の研究の進捗、その他公私の活動などを期待する。</li> <li>・上記の発表は基本的に任意である(強制ではない)ことが多いので、積極的な姿勢で講義に参加する事が望ましい。</li> <li>・テキストを、指定する講義回までに読んでおくこと。</li> </ul>	
本科目の 関連科目	研究手法概論(末盛 慶)、医療福祉経営論(若山 雅博)、医療福祉経済論(二木 立) 保健・医療・福祉サービス論(藤井博之・近藤克則)、経営管理概論(柳 在相)	
テキスト	後藤芳一・星川安之(2011)『共用品という思想』岩波書店 後 正武(2001)『意思決定のための「分析の技術」』ダイヤモンド社 ほかに、毎回、資料を配付	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 鷲田小彌太『入門・論文の書き方』PHP新書, 1999</li> <li>* 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書, 1959</li> <li>* 大野 晋『日本語練習帳』岩波新書, 1999</li> <li>* 石村貞夫『入門はじめての統計解析』東京図書, 2006</li> <li>* 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書, 2000</li> </ul>	
成績評価 方法及基準	演習(30点)、課題発表(30点)、レポート(20点)、講義への寄与(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする	

□講義科目（専門科目）

科目名	福祉サービスマネジメント特講Ⅰ	2単位	
担当者	山内 哲也（非常勤教員）		
テーマ	福祉の実践事例から福祉サービスマネジメントを学ぶ		
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; ピアスーパービジョン、福祉マネジメント、コミュニティケア、アクションリサーチ、</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講は、広義の医療福祉現場で複雑化が進む各種事例の問題解決や福祉資源・地域づくりにあたり「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」および施設・事業所の経営も成り立たせる福祉マネジメントの課題と方法を学ぶことを目的とします。そのため大学院と福祉現場の連携機能を活かし、各領域の実践家による実践報告、担当教員の講義などから総合的に学ぶ教育方法をとります。本講は土曜日午後に関講し、平日多忙な人や遠隔地の人も参加しやすい配慮をします。また、広く市民も受講できるような一般公開します。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉資源・地域づくりに必要な「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」について学ぶ。</li> <li>自分自身の問題意識、関心にひきつけ、他の実践事例から有効な実践・思考フレームを構築して応用できる。</li> </ul>		
授業の進め方	<b>5月21日（土）</b>		
	1限 13:25-14:55	地域包括ケアに求められる多職種連携教育	宇佐美千鶴
	2限 15:05-16:35	社会福祉施設における HIV 陽性者の受入れ課題と対策	山内 哲也
	3限 16:45-18:15	ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	山内 哲也
	<b>6月25日（土）</b>		
	1限 13:25-14:55	居住の貧困をどのように支えるか	新名 雅樹
	2限 15:05-16:35	都市型複合施設の地域貢献活動 ～地域に社会資源を開発～	野村 美奈
	3限 16:45-18:15	ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	山内 哲也
	<b>8月27日（土）</b>		
	1限 13:25-14:55	地域包括ケアにおける社会福祉士・ケアマネの役割	近藤 芳江
	2限 15:05-16:35	一人ひとりの「居場所づくり」	火口 弥生
	3限 16:45-18:15	ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	山内 哲也
	<b>10月22日（土）</b>		
	1限 13:25-14:55	災害福祉と地域共生の街づくり	佐々木 薫
	2限 15:05-16:35	健康のあり様をめぐる ～医療福祉生協の実践～	片山 忍
3限 16:45-18:15	ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	山内 哲也	
<b>11月19日（土）</b>			
1限 13:25-14:55	医療福祉のリスク・クライシスマネジメント	天野 敬子	
2限 15:05-16:35	対人援助者の「小さな」起業～その実践と展開を振り返る～	原田 亘	
3限 16:45-18:15	ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ	山内 哲也	
事前学習の内容学習上の注意	指定した参考図書は事前に読んでおくとよいです。		
本科目の関連科目	福祉サービスマネジメント概論		
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。		
参考文献	非営利組織の経営 PF ドラッガー ダイアモンド社 ソーシャルワーク 事例研究の理論と実際 野口定久 他 中央法規 社会福祉・介護福祉の質的研究法 田中千枝子他 中央法規		
成績評価方法と基準	出席(参加度)と提出レポートの方法で評価します。全体で 60%以上を合格とします。		

科目名	福祉教育方法論(隔年開講、2022 年度開講)	2単位
担当者	原田 正樹	
テーマ	福祉教育研究の動向と福祉教育実践の新潮流	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 福祉教育研究、福祉教育原理、持続可能な社会開発教育(ESD)、リフレクション</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 福祉教育は、社会福祉分野と教育分野の交錯する学際的な領域になる。よって社会福祉だけではなく、教育研究からのアプローチも必要になる。 本科目の目的は次の5点である。①福祉教育の概念の理解、②福祉教育実践の現状と課題の考察、③福祉教育研究の視点と方法の理解、④社会福祉の教授法の検討、⑤社会福祉政策動向における福祉教育の位置づけの検討。 とりあげる領域は、福祉教育原理論、地域を基盤にした福祉教育、学校を中心とした福祉教育(小、中、高、特別支援学校)、社会福祉専門教育(福祉科教育、実習教育を含む)とする</p> <p>&lt;学習目標&gt; (知識・理解)福祉教育の概念、方法論についての先行研究を通して研究方法を身につける。 (思考・判断)実践者として、福祉教育の方法や課題を学び、実践プログラムの立案ができる。 (技能・表現)福祉教育における今日的な課題、論点を学び、自らの意見を述べるができる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 オリエンテーション(福祉教育研究の現状と課題)</p> <p>第2回 福祉教育研究の変遷と今日的な論点</p> <p>第3回 福祉教育概念の検討と福祉教育原理論</p> <p>第4回 福祉教育実践プログラム</p> <p>第5回 福祉教育原理(岡村論文と大橋論文を読み解く)</p> <p>第6回 福祉教育原理(当事者性についての論考)</p> <p>第7回 福祉教育実践の潮流</p> <p>第8回 福祉教育実践とリフレクション(ポートフォリオ評価、自己形成評価)</p> <p>第9回 福祉教育実践の事例</p> <p>第10回 福祉教育実践の事例</p> <p>第11回 福祉教育と地域共生社会の政策動向</p> <p>第12回 改正社会福祉法と包括的支援体制の構築</p> <p>第13回 福祉教育実践プログラム提案とディスカッション①(受講生によるプレゼン)</p> <p>第14回 福祉教育実践プログラム提案とディスカッション②(受講生によるプレゼン)</p> <p>第15回 福祉教育方法論のリフレクション</p> <p>※本科目は学習内容が多岐に及ぶため、初回のオリエンテーションにて受講者の学習ニーズを踏まえ、授業展開を変更することがある。</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>毎回の授業終了時に、次回とりあげる論文や資料を配布するので読んでおくこと。 福祉教育の実践を知るために、『ふくしと教育』大学図書出版のバックナンバーを読んでおくことが望ましい。 受講生は、前半の講義を踏まえて、実践プログラムを立案して、プレゼンを行う。</p>	
本科目の 関連科目	研究方法概論、ソーシャルワーク論、地域福祉論	
テキスト	日本福祉教育・ボランティア学習学会編『新機軸と学際性』大学図書出版 その他必要な論文、資料等を提示します。	
参考文献	<p>原田正樹『共に生きること 共に学びあうこと』大学図書出版</p> <p>一番ヶ瀬康子・小川利夫他『シリーズ福祉教育・1-7』光生館</p> <p>大橋謙策『地域福祉の展開と福祉教育』全社協</p> <p>原田正樹他『福祉教育論』北往路書房</p> <p>阪野貢監修『福祉教育のすすめ』ミネルヴァ書房</p> <p>日本福祉教育・ボランティア学習学会紀要のバックナンバー</p> <p>『ふくしと教育』大学図書出版のバックナンバー</p>	
成績評価 方法と基準	レポート(60点)、毎回のコメント(30点)、課題(10点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

科目名	医療福祉経営論	2 単位
担当者	若山雅博	
テーマ	医療福祉経営の基本的視座	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  医療福祉サービス  医療福祉専門職と専門職組織  医療福祉政策・社会保障制度</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  医療福祉を取り巻く経営環境は今や激動期を迎えている。医療・介護保険財政の逼迫や財政構造改革の中での福祉予算の削減などが医療福祉経営に大きな影を落としつつある。サービスの提供側も経営の効率化を一層求められている。</p> <p>しかし、医療福祉経営には多くの特性があり、企業の経営理論をそのまま適用して経営改革を行おうとしても多くの困難がある。そのため本講義では医療福祉経営を研究しようとする人々のために基本的な視座を提供する。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  医療福祉経営の基本的視座を理解することができる。  文献を批判的に検討できる。  プレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>	
授業の進め方	<p>本講義は隔週・2コマ連続開講とする。</p> <p>第1回 オリエンテーション ← 報告分担を決定</p> <p>第2・3回 ヘルスケア・サービスのマネジメント（基本テキスト：1章）</p> <p>第4・5回 ヘルスケア・サービスのマネジメント（基本テキスト：2章）</p> <p>第6・7回 ヘルスケア・サービスのマネジメント（基本テキスト：3章）</p> <p>第8・9回 医療福祉専門職と専門職組織（基本テキスト：4章）</p> <p>第10・11回 医療福祉専門職と専門職組織（基本テキスト：5章）</p> <p>第12・13回 医療福祉専門職と専門職組織（基本テキスト：6章）</p> <p>第14・15回 医療政策の政策過程（基本テキスト：9章）</p> <p>※9章は7～8章も事前に読んで理解していること。それを前提に9章を議論する。  講義は参加者の報告とディスカッションを中心に進める。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>履修者は指定された文献とそれに関わる参考文献を読んだうえで、報告用のレジュメ（報告担当者はA3用紙一枚、他の参加者はA4用紙一枚）を作成して参加する。レジュメの作成方法は第1回のオリエンテーションで説明する。</p> <p>経営学、社会学、政治学の基礎的な知識の修得と理解を深める。</p>	
科目の関連科目	医療福祉政策論	
テキスト	<p>基本テキストとして以下を使用する。</p> <p>中島明彦『ヘルスケア・マネジメントー医療福祉経営の基本的視座(第2版)』同友館、2009年。</p>	
参考文献	<p>田尾雅夫『現代組織論』勁草書房、2012年、中島明彦『医療供給政策の政策過程』同友館、2017年など</p>	
成績評価方法と基準	<p>報告内容とディスカッションへの参加で評価する。報告用レジュメの提出と発表（60点）、ディスカッションへの参加（40点）により合計60点以上を合格とする。</p> <p>なお、2/3以上の出席がないと評価の対象としない。</p>	



科目名	医療福祉経済論	2単位
担当者	二木 立(非常勤教員)	
テーマ	医療・福祉の経済分析と政策研究の基礎	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 医療経済学、医療政策研究、全世代型社会保障</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義は院生が医療・福祉の経済分析の基礎知識・考え方を身につけることを目的としている。そのために、医療経済学の基礎(医療の経済的特性、医療の経済分析の手法等)とその応用(医療・福祉サービスと政策の経済的分析)を、主に私の著作や論文を用いて、経済学の基礎知識がない院生も理解可能なように、分かりやすく、具体例を交えて講義する。講義では、私の研究の結果だけでなく、テキストや論文に詳しくは書いていない、私が研究を始めた動機や研究途中の失敗談、研究ノウハウ等も紹介する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ①医療・福祉に関する経済分析と政策研究の基礎的知識・考え方を理解する。 ②講義とレポート添削により、論文読解と論文執筆に必要な研究方法論を身につけることができる。 ③後半(第 8~14 回の 7 回)はゼミ形式で行うことにより、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回 オリエンテーション、「医療経済学の将来」と研究者の政策形成への寄与 第 2 回 医療・介護サービスの経済的特性 第 3 回 医療・介護サービスの経済的特性(続き) 第 4 回 国民皆保険制度の社会経済的分析 第 5 回 医療効率と費用効果分析ー地域・在宅ケアを中心として 第 6 回 医療技術と医療費への影響 第 7 回 特講:私の最新の研究テーマのうち、履修者・聴講者の一番希望の多いものを話す ※第 8、9 回はテキスト(2)を、第 10~14 回はテキスト(3)を用い「ゼミ形式」で行う(毎回受講者の 1 人がテキストの該当章について文書で報告し、討論) 第 8 回 医療政策の分析枠組み、医療政策の将来予測の視点と方法 第 9 回 私の医療経済・政策学研究の視点と方法、資料整理の技法 第 10 回 コロナ危機後の医療提供体制 第 11 回 安倍・菅・岸田内閣の医療・社会保障改革 第 12 回 全世代型社会保障改革の批判的検討 第 13 回 社会保障・社会福祉の理念と社会的処方 第 14 回 医療経済・政策学の論点 第 15 回 レポート返却・講評、質疑応答</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p>○毎回の授業前に、『講義資料集』とテキストの指定された個所を事前に読んでおくこと。 ○毎回授業の最後 10 分間に質問を受け付けるので、聞き逃したことやもつと詳しく聞きたいことを積極的に出すこと。 ○講義開始前の 30 分間を「オフィスアワー」とし、質問・相談を受け付ける(予約不要)。</p>	
テキスト	<p>(1)「2022 年度『医療・福祉経済論』講義資料集」(第 1~6 回講義の資料を収録。開講時配布)。 (2)二木立『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房,2006。 (3)二木立『20 年代初頭の医療・社会保障』勁草書房,2022 (3 月出版) (2)・(3)は各自、事前に購入する:(2)は品切れなので、書店または勁草書房に直接「オンデマンド出版」を注文するか、Amazon 等で古書を購入する。</p>	
参考文献	<p>二木立『保健・医療・福祉複合体』医学書院,1998。 二木立『介護保険制度の総合的研究』勁草書房,2007。 二木立『地域包括ケアと地域医療連携』勁草書房,2015。 二木立『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房,2017。 二木立『地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク』勁草書房,2019 二木立『コロナ危機後の医療・社会保障改革』勁草書房,2020。 二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房,2018。</p>	
成績評価 方法と基準	<p>2 つのレポート(50 点満点)と筆記試験(50 点満点)を総合して評価する。 ゼミ形式で行う第 8~14 回の報告者は 20 点加点。 レポートは第 14 回講義前にメールで私宛提出する。提出されたレポートは個別に添削・評価し、第 15 回講義前にメールで返却し、講評と質疑応答を行う。</p>	

科目名	社会福祉政策論（隔年開講、2022年度開講）	2単位
担当者	藤森 克彦	
テーマ	①なぜ日本の貧困率が高いのか ②なぜ単身世帯は増加するのか。求められる社会（福祉）政策は何か。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 単身世帯、2. 所得再分配、3. 貧困、4. 社会的孤立、5. 福祉国家レジーム</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本科目では、前半で、日本の社会（福祉）政策—とりわけ社会保障制度—について、国際比較を交えながら、日本の生活保障の特徴と限界を考える。 後半では、単身世帯を切り口に、日本の社会（福祉）政策を考察していく。日本では、生活上の様々なリスクに家族が大きな役割を果たしてきた。しかし、世帯規模が縮小し、家族の支え合い機能が、従来よりも弱くなっている。単身世帯の増加は、その象徴といえる。そこで、単身世帯の増加の実態と生活上のリスクを考察しながら、社会保障政策、労働政策、財政政策などを総合的に考察していく。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・社会（福祉）政策の役割を説明できる。 ・日本の貧困の実態と要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。 ・単身世帯の増加実態とその要因を把握し、必要な社会（福祉）政策を説明できる。</p>	
授業の進め方	第1講 インTRODクシヨN／社会福祉政策とは何か 第2講 日本の社会福祉政策の仕組み 第3講 国際比較を通して、日本の貧困を考える① 第4講 国際比較を通して、日本の貧困を考える② 第5講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態① 第6講 所得再分配の効果をめぐる議論と実態② 第7講 福祉国家類型論① 第8講 福祉国家類型論② 第9講 単身世帯の増加とその要因 第10講 単身世帯の生活上のリスク—貧困、社会的孤立、介護 第11講 単身高齢世帯の国際比較—米国、ドイツ、スウェーデンとの比較 第12講 単身世帯予備軍 第13講 単身世帯と「身寄り」問題 第14講 単身世帯の増加に対する対策 第15講 まとめ講義	
事前学習の内容・学習上の注意	・講義の中では「考えること」を重視するため、教員から学生に問いを投げかけ、学生に発言を求める対話型の講義を行っていく。 ・第1講から第8講までは、日本の社会（福祉）政策について講義を行う。第9講以降は、単身世帯を題材にして、社会（福祉）政策を考える。 ・講義終了後、学んだ内容を指定テキストや参考文献によって確認しておくこと。	
テキスト	藤森克彦『単身急増社会の希望』日本経済新聞出版社、2017年	
参考文献	権文善一『ちょっと気になる社会保障V3』勁草書房2020年 権文英子『ちょっと気になる働き方の話』勁草書房2019年 権文善一『ちょっと気になる政策思想』勁草書房2018年 権文善一『ちょっと気になる医療と介護』勁草書房2017年 駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策—福祉と労働の経済学』有斐閣、2015年 厚生労働省『平成24年厚生労働白書』（第1部 社会保障を考える）を以下のHPより、ダウンロード可。 <a href="http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/">http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/</a>	
成績評価方法と基準	ディスカッションへの参加度（30%）、最終講義後に提出を求める課題レポート（70%）を合わせて、総合的に評価する。総合評価60点以上を合格とする。	

科目名	保健・医療・福祉サービス論	2単位
担当者	藤井 博之（非常勤教員）・近藤 克則（非常勤教員）	
テーマ	保健・医療・福祉のマネジメント課題の全体像を学び、実践と研究に活かす	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  保健・医療・福祉  マネジメント・サイクル  ミッション、ビジョン、ゴール  多職種協働 (interprofessional collaboration)  健康の社会的決定要因 (social determinants of health)</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  日本はいまや高齢人口割合が世界一多い国である。保健・医療・福祉サービスのいずれかを必要とする高齢者は、同時に他のサービスも必要とする。いずれかの分野で働く者は、保健・医療・福祉サービスの全体を学ばねばならない。質の高いサービスを提供するには、ミクロ（臨床）レベルの技術だけでなく、それを支えるチーム・組織、システム、政策に至るすべてのレベルにおけるマネジメントが影響する。  本講義では、保健・医療・福祉職に必要なミクロ（臨床）レベルの QOL (quality of life) やケア・マネジメントから、メゾ（チーム・事業所）レベルのマネジメント、マクロ（政策）レベルの医療・介護・社会政策的マネジメントまで取り上げて論じる。  保健医療福祉サービスの特性・固有性と、レベルや領域を超える「マネジメント」の普遍性の両面から、その基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  保健・医療・福祉の各場面におけるマネジメントの必要性を理解する。  現場の課題をミクロ、メゾ、マクロの各視点から説明できる。  現場の課題に種々のマネジメント手法を応用することができる。  現場の課題の社会的・制度的背景を理解し、現場のマネジメントに役立てられる。  多職種協働の必要性、困難性、実現可能性を説明できる。</p>	
授業の進め方	第1回 オリエンテーションー保健・医療・福祉サービスマネジメント総論（藤井） 第2回 ケース理解とサービスの質を捉える枠組み（藤井） 第3回 ケアマネジメント（1）マネジメント・サイクル（藤井） 第4回 ケアマネジメント（2）問題分析と解決志向（藤井） 第5回 保健・医療・福祉における人材の確保・養成（藤井） 第6回 マネジメントと戦略（藤井） 第7回 チーム・組織のマネジメント（1）チームワークと援助技術（藤井） 第8回 チーム・組織のマネジメント（2）リスク管理と経営（藤井） 第9回 保健医療福祉の半世紀とNPM（近藤） 第10回 医療政策（近藤） 第11回 超高齢社会と福祉産業のmission・chance・risk（近藤） 第12回 高齢者医療介護の課題（近藤） 第13回 保健・介護予防政策のマネジメント（1）（近藤） 第14回 保健・介護予防政策のマネジメント（2）（近藤） 第15回 研究と教育のマネジメント（近藤） ・臨床→チーム→組織→政策の順に進める予定だが、講師の都合で順番が変更になる場合がある。 ・グループワークを取り入れる場合がある。	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストの該当部分を予習すること。	
本科目の 関連科目	「ケースメソッド演習」	
テキスト	近藤克則著：「医療・福祉マネジメントー福祉社会開発に向けて 第3版」改訂版、ミネルヴァ書房、2017	
参考文献	藤井博之編著：保健医療福祉キーワード研究会：保健医療福祉のくせものキーワード事典,医学書院,2008 藤井博之編著：ラーニングシリーズ I P 保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践第1巻 I P の基本と原則,協同医書,2018 藤井博之：地域医療と多職種連携,勁草書房,2019 近藤克則：健康格差社会ー何が心と社会を蝕むのか,医学書院,2005 近藤克則：「医療クライシス」を超えてーイギリスと日本の医療・介護のゆくえ,医学書院,2012 近藤克則：健康格差社会への処方箋. 医学書院, 2017 近藤克則：長生きできる町、角川新書、2018 近藤克則：研究の育て方ーゴールとプロセスの「見える化」,医学書院,2018	
成績評価方法 と基準	毎回、ミニ・レポート、感想、質問を出席カードまたは Web、メールで提出してもらいます。 レポートは 2000 文字から 3000 文字程度 (A4 版で 2 枚以内) .テーマは講義中に示します。〆切り 1 月 21 日、名古屋事務室が指定する提出 BOX に提出してください。 毎回の提出物(20 点)とレポート(80 点)の割合で評価します。	

科目名	ケアマネジメント論	2単位
担当者	上原 久(非常勤教員)	
テーマ	ケアマネジメントの理論と実際	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 多職種連携 2. ケアマネジメント 3. チームワーク</p> <p>&lt;内容の要約&gt; ケアマネジメントの概念、歴史、分類、適応、効果などの全体像を整理すると同時に、多職種が協同して事例理解を深める方法や連携の在り方について、ケーススタディーを用いながら体験的に学ぶ。後半では、介護支援専門員や相談支援専門員を招き、実際の事例を題材に事例検討会形式で多職種による事例理解の深め方・目標設定の仕方・計画策定の方法など、ケアマネジメントの実践技術を学ぶ。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・実践技術としてのケアマネジメントについて理解できる。 ・連携の概念について理解できる。 ・多職種連携に不可欠な事例理解の深め方を理解できる。 ・情報共有の手法について理解し実行できる。</p>	
授業の進め方	第 1 回 ケアマネジメントの概要と意義、歴史と類型 第 2 回 インテーク、アセスメント、プランニング、 第 3 回 モニタリング、インターベンション 第 4 回 エバリュエーション、ターミネーション 第 5 回 関連技術、スーパービジョン 第 6 回 連携の関係性と質、チームワーク、 第 7 回 ケア会議の必要性、ケア会議を構成する要素 第 8 回 ケーススタディー① 第 9 回 ケーススタディー② 第10 回 ケアマネジメントの実際① 第11 回 高齢者領域における課題 第12 回 ケアマネジメントの実際② 第13 回 障害者領域における課題 第14 回 その他の領域(就労・生活困窮者)における課題 第15 回 振り返りと総括	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストを事前に読んでおくことが望ましい。 ○ソーシャルワーク論や保健・医療・福祉サービス論等の基礎的な科目に関する基本的な知識を前提として講義を進める。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○ディスカッションには積極的に参加すること。	
本科目の 関連科目	ソーシャルワーク論、保健・医療・福祉サービス論、スーパービジョン論、地域福祉論	
テキスト	①上原久:「ケア会議の技術2」(中央法規出版) ②上原久:「生活困窮者支援のための連携のかたち」(中央法規出版) ③上原久:「見立てを深めるための事例検討会」(Next Publishing Authors Press)	
参考文献	①野中猛、上原久:「ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質」(中央法規出版) ②野中猛ほか:「多職種連携の技術」中央法規出版	
成績評価 方法と基準	1回ごとのコメントカードの提示(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)、提出レポート(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	人材マネジメント論	2単位
担当者	斐 英洙(非常勤教員)	
テーマ	医療・介護組織における人や組織のマネジメントを学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; リーダーシップ、モチベーション、組織行動論、ケースディスカッション、相互作用</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 人材マネジメントは、「ヒト」と「組織」を最大限効果的に機能させるために欠かせないもので、組織が継続的に発展するために、最も重要となる活動です。経営資源の「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、ヒトは意志と感情を持って動くものです。上手に活用すれば(=マネジメントすれば)組織に大きな価値をもたらしますが、活用を間違えば組織の価値を減じます。ヒトと組織をマネジメントしていく方法を、講義とケースディスカッションを通じて学んでいきます。本講座の特徴は、ケースディスカッションを多めに配置しており、講師との一方向のやり取りでなく、講義参加者同士の相互作用を醸成していきます。さらに、発表機会が多くなることで、プレゼンテーション能力や傾聴力を養うこともできます。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・人材マネジメントの基礎を学ぶことができる ・組織行動論の基礎を学ぶことができる ・討議を通じて他職種の見点を得ることができる ・討議発表を通じて人に分かりやすいプレゼンテーション能力を養うことができる</p>	
授業の進め方	<p>第1回 人材マネジメントの基礎(1) 第2回 人材マネジメントの基礎(2) 第3回 人材マネジメントの基礎(3) 第4回 リーダーシップ(1) 第5回 リーダーシップ(2) 第6回 モチベーションとコミットメント 第7回 グループとチームワーク 第8回 医師・介護・看護職のキャリアの問題点 第9回 人材の確保と定着 第10回 経営現場における人材課題(1) 第11回 経営現場における人材課題(2) 第12回 人材マネジメントの複合的課題(1) 第13回 人材マネジメントの複合的課題(2) 第14回 人材マネジメントの複合的課題(3) 第15回 総括</p> <p>原則的に、「講義」+「ケースディスカッション」で構成されます。各回の内容はクラスの理解・進捗具合により、多少変更することがあります。講義内で外部からの特別講師による実務家講演を実施する場合があります。</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した参考文献を事前に読んでおくことがのぞまれます。</li> <li>・授業への積極的参加を重要視するため、参考文献等を読んで不明な専門用語の意味等は事前に理解してください。</li> <li>・第1回目以降は、テーマの書籍・論文・資料など教材を指示することがあります。</li> </ul>	
本科目の 関連科目		
テキスト	テーマと課題に応じて、担当者が作成した資料等をもとにクラスを運営します	
参考文献	<p>斐英洙「医療職が部下を持ったら読む本」(日経 BP 社) 斐英洙「医療職が部下に悩んだら読む本」(日経 BP 社)</p>	
成績評価 方法と基準	授業での発言点(60点)、出席回数(20点)、レポート(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とします	